

全日病協会提出資料

# 「無いものは作る」

当院のPPE開発プロジェクト  
(2020年4月14日現在)

---

 SHOUWAKAI  
 社会医療法人 祥和会  
 脳神経センター大田記念病院  
Brain Attack Center Ota Memorial Hospital

理事長 大田 泰正

## ■ 製作のきっかけ

2020年2月より、サージカルマスクの入荷がストップ、見通しが立たず。理事長「では作ろう」→法人本部スタッフで検討開始。

## ■ 製作プロセス

当院スタッフがマスクの「型」を作成

地元医療機器商社に、医療用不織布（SMS素材）の入手を依頼。

県内の自動車シートメーカーが裁断、完成となる

納品価格は1枚単価25円。当初割高感があったが、現在はサージカルマスクの価格が高騰したため、こちらのほうが安い。

3月11日より、事務系などバックヤードスタッフ等で使用開始。

オリジナルマスクの併用により、サージカルマスクの減少が抑制されている。

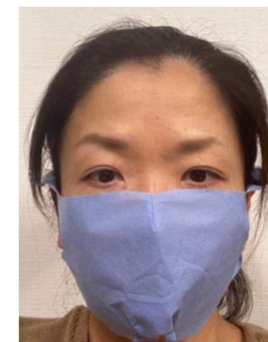
このマスクは、市内県内の医療機関、工場等に広く納品されている。4月13日現在、30万枚を出荷（半分が医療機関、半分が工場等で使用）。

# オリジナルマスク

社会医療法人 祥和会  
脳神経センター 大田記念病院



SMS不織布は、手術現場で使われるアレルギーテスト済の素材です。「スパンボンド不織布」(S)と、「メルトブローン不織布」(M)を、S、M、Sの順に三層構造で貼り合わせたもので、真ん中のメルトブローン不織布は、0.5～5ミクロンの繊維で出来ていることから、空気中の小さなゴミや花粉は通さないと考えられる。S・M・Lの3サイズを作成。



単にシートを型抜きしただけで立体感がないため、当院で利用するときには、使用する人が自ら、鼻に当たる部分、口元をステープラ（ホッチキス）で綴じて、装着したときに立体感ができるように工夫。「マスクの作り方と使い方」として、動画マニュアルもあわせて制作し、購入者と共有している。

## ■ 製作のきっかけ

マスクの自社開発により、「無いものは作る」という機運が出た。

## ■ 製作プロセス

COVID-19拡大のため、訪問看護スタッフが発案。

在宅での吸引時に「フェイスシールド」を使いたいが、入荷が困難なため、100円均一の材料で作成。

その後、救急外来、看護部、リハビリ課等、飛沫感染の恐れが高い場面でも使用するようになった。

このフェイスシールドの作り方を当院フェイスブックにアップしたところ、シェア39件、6647リーチに到達。同様の対策をとっている医療機関もみられる。

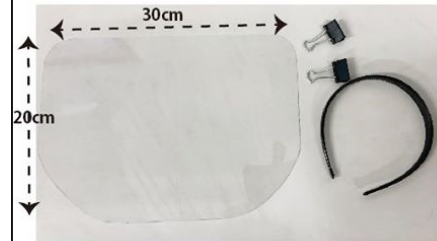
医療材料卸業者が、当院のフェイスブックページをコピーし、他県の医療機関に案内している。

# フェイスシールド

社会医療法人 祥和会  
脳神経センター大田記念病院



## 簡易フェイスシールドの作り方 How to make a homemade face shield



準備するもの:

- プラバン (厚さ 0.2-0.3mm くらい)  
写真のようにカットし、四隅を丸くする。  
下の辺 (あごの方) は短めにする。  
※顔の大きさとサイズは決めてください
- カチューシャ  
飾りなどのないものが作りやすいです。
- ダブルクリップ 鉄口 25mm 2個

Things to prepare:

- Plastic board thickness 0.2-0.3mm  
Cut as shown in the photo and round off the four corners.  
Keep the lower part short.  
Please decide the size according to the size of your face.
- simple head band
- double clip size 25 mm 2 peaces



写真のように、カチューシャに  
プラバンの長いほうの辺を巻き付け、  
二点をダブルクリップで止める。

As shown in the photo, wrap the longer  
side of the plastic board around the hair band  
and fix the two points with double clips.



完成!  
Finished!

※啓発のためにこの資料を印刷・配布等、ご活用いただいても問題ございません。  
ただし、商用利用(課金目的での動画含む)なされることは禁止とさせていただきます。  
電話・メール等によるお問い合わせには対応できませんのでご了承ください。

SHOUWA KAI  
社会医療法人 祥和会  
脳神経センター大田記念病院  
Brain Attack Center Ota Memorial Hospital

すべて材料は100均で購入。英語も併記した作り方をフェイスブックにアップしている。  
クリップを使わない簡易版も作成 (右写真)。



## ■製作のきっかけ

4月14日現在、当院でも全く入荷がない。

複数の医療材料卸業者に確認するも、原材料の輸入が止まっており、全く見通しが立たない状況。

当地出身の医師（東京・感染症指定医療機関に勤務）から、ガウン不足が逼迫しており、地元で類似のものが生産できないかとの照会を受ける。

## ■製作プロセス

地元のJCのメンバーと連携し、ポリエチレンビニル製造業者、プレス加工工場がつながり、試作品を製作。

4月14日、試作品到着。当院感染対策室スタッフで検証、理事長許可を得て業者に生産を発注。初回ロットは8,000枚だが、半分は三次市医師会（大規模クラスター発生中）に納品される見込み。

現時点での価格は@280円だが、生産枚数が増えるとコストが下がる予定。

※中国ルート現時点の納品価格が@500円との情報あり

本件は全国的にニーズが高いと考えられ、地元選出の国会議員とも連携し、情報共有を図っている（→他地域での展開を模索）。

# プラスチックガウン

社会医療法人祥和会  
脳神経センター大田記念病院

輪ゴムが  
縫いこんである



後背部の切れ目  
は入れていない  
が、素材がうす  
いため、引っ  
張って破ること  
が可能。

型は一般的なプラスチックガウン（右写真）と同様。  
試作は無着色だが、実物はピンク色となる予定

